



北、ミサイル失敗

発射後に空中分解

朝鮮中央通信「軌道進入せず」

北朝鮮は13日午前7時39分、人工衛星打ち上げと称して予告していた長距離弾道ミサイル発射実験を実施し、失敗した。ミサイルは同国北西部の東倉里から発射。防衛省幹部によると、ミサイルは1分間以上飛行し、高

度120キロ付近で空中分解した。そのうち1個が韓国西側の黄海の予告海域に、7個の破片はその東側の洋上に落下した。朝鮮中央通信は、「人工衛星」が発射されたが軌道進入に「成功しなかった」と報じ「失敗の原因

を調べている」と伝えた。藤村修官房長官は記者会見で「失敗したとの判断だ」と明言。日本領域への影響はなく、迎撃措置も取らなかった。日米韓は過去の国連安

全保障理事会決議違反と非難。安保理は13日の緊急会合で対応を協議する。北朝鮮にとって事実上の最高指導者である朝鮮労働党第1書記に就任した金正恩氏の威信は大

きく揺らぎ、新体制への打撃となる。野田佳彦首相は午前の安全保障会議で、関係省庁で①引き続き情報収集する②国民への情報提供に全力を尽くす③明確な安保理決議違反であり、関係国と連携を強化するなどと指示した。韓国政府は金星煥外交通商相が「失敗したと確認した」と述べた。米ホワイトハウスは「発射は地域の安全を脅かす」と批判。ミサイルは「テポドン2号」と米軍が発表した。



北朝鮮が公開した、ロケット「銀河3号」とみられる長距離弾道ミサイル=8日、北朝鮮北西部・東倉里

1段目と2段目を切り離す際に何らかのトラブルが生じたとみられる。藤村氏は「わが国への落下物などによる影響は一切ないと考える。国民の皆さんは冷静に平常通りの生活、業務に就いていただくようお願いする」と呼び掛けた。北朝鮮に対する日本独自の追加制裁措置を検討すると明らかにした。